



冬至の日の出があがる内宮宇治橋 (提供: 神社司庫)

# 三重県立伊勢高等学校

「伊勢志摩版循環型学校間連携モデル」による科学技術系人材育成システムの研究・開発

## 小中高大連携の活動が生む好循環

### 機能する科学技術系人材育成システム

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されている三重県立伊勢高等学校では、隣接する皇學館大学や地域の小中学校などと連携した循環型の科学技術系人材育成システムを開発してきた。2年生の高木清帆さんが「子供の時に伊勢高の親子科学教室に参加したことなどがきっかけで『スーパーサイエンスクラブ (SSC)』に入学して、今は教える側になりました」と話すように、すでに循環型システムが機能している。

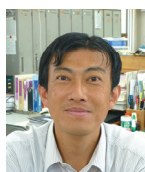
「SSC」とは同校自然科学系部活動 (物理・化学・生物・天文・数学) の総称で、親子科学教室などの課外活動のほか、各種科学コンテストに参加して優秀な成績を取ってきた。コンテスト前には卒業生による強化講座が設けられるなど、ここでも循環型が成立している。



校内の天文ドームと活動メンバー



部員が講師となり親子科学教室を開催



●実施担当

藤原良幸 教諭

●活動のモットー

生徒がやりたいことを否定しない。難しいと思われることでも、まずはやらせてみることを心がけている。



興味にあわせて兼部も自由



和紙づくり (紙すき)の様子



電気泳動のゲル作製の説明

### 面白そうなことは何でも研究する

SSC では研究活動も行うが、これが多岐にわたる。生物部2年の大道惺登さんは「『へいさく』という民間薬の研究や学校にある御衣黄桜の花酵母を使ったパン作り、蚕やスッポンの飼育など、面白そうなことは何でもやります」と話す。高木さんも「部の枠はあまり関係なく、他で面白そうなことをやっていたら兼部して参加します。私も生物部と化学部を兼部していて、なかには全クラブ兼部の猛者もいます」と笑う。

担当の藤原良幸教諭も「SSCの部員以外で『これやってみたい』と来る子もいて、なかには高校入学前から皇學館大学に出入りして寄生バチの研究をしていた生徒もいます」と話す。現3年生のその生徒は2021年度の日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞した。そんな先輩たちについて、高木さんや大道さんが「すごい先輩が多くて刺激になります」と言うように、在校生の間でも理想的な循環が起きている。(プログラム助成)

学校概要



2012年度からSSHの指定を受け、22年度からは3期目を迎える。「科学の甲子園」で全国優勝の経験もある県内屈指の進学校。

設立: 1956年

生徒数: 832人

所在地: 三重県伊勢市神田久志本町1703-1

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。